

2009年4月2日

件名: ドン・ユー・ランと彼の同労者たちの分裂的な働き

宛先: ドイツ、スイス、イタリアにおける主の回復の聖徒たちと諸召会

親愛なる聖徒たちへ

主の回復において、わたしたちは神の完全な救い、神聖な命、神のエコノミー、キリストのからだとしての召会など、積極的な事柄に焦点づけられています。これらは、ヨーロッパで諸召会を生み出させる事柄であり、また聖徒たちを豊かに養い続けます。これらの豊かな事柄を十分に考慮して、わたしたちの間で引き起こされ、また数年間ヨーロッパで活動的なある深刻な状況に取り組むために、わたしたちは今いくらか時間を費やさなくてはなりません。これは、ドン・ユー・ランと彼の同労者たちの働きです。

ドイツ、イタリア、スイスにおける主の回復を顧みる同労者たちとして、また、その地域の諸召会に対して責任を担う者たちとして、わたしたちは何年間もこの働きと、その働き人たちについて忍耐してきました。これらの働き人たちが主の回復における一つの働きの中へとブレンディングされ、キリストのからだの実行上の交わりにあずかるための、何らかの道を見つけようとわたしたちは願ってきました。しかしながらドン兄弟の働きは、主の回復の名前を用いつつも独立した働きであり続け、独立し、孤立したグループを産み出して、からだの一ではなくドン・ユー・ランの働きとの関係を彼らの立場としています。実際、その働きそのものも、働き人たちも、年を経るごとにより独立的で分離されたものとなってきています。ドン兄弟の働きが及ぼす損失は、彼の働きが広まるにつれて増大してきています。さらに、ドン兄弟の働き人たちは、わたしたちが諸召会の間や働きにおいて大切にしている交わりや組み合わせにおいて、わたしたちに加わる願いを全く見せません。

わたしたちはすべての兄弟たちを愛し、キリストにあるすべての真の信者との交わりに開いている一方で、わたしたちの間で分裂の原因となる人たちに関する聖書の神聖な言葉を尊重しなくてはなりません。ローマ16:17でパウロは言います、「さて兄弟たちよ、わたしはあなたがたに勧めます。あなたがたが学んできた教えに反して、分裂やつまずきの原因を作る者たちを警戒し、また彼らから離れ去りなさい」。これは、深刻で厳粛な事柄です。「彼らから離れ去りなさい」という箇所についての回復訳の以下のフットノートを考察してみてください。

第14章で、パウロは教理や実行で異なっている人たちを受け入れることについては、寛容で寛大でした。しかしここでは、分派的であったり、分裂を引き起こしたり、つまずきの原因を作る者たちからは離れ去らなければならないと、断固として、決然と語っています。いずれの場合も、その目的はキリストのからだの一を守ることにあり、それは、わたしたちが正常な召会生活を持つためです。

わたしたちはこの事柄を軽々しく取り扱いませんし、またそうすることもできません。

ドイツのシュトゥットガルトとスイスのレーゲンスドルフでの否定的な語りかけと分裂的な活動

2006年、シュトゥットガルトでドン兄弟の働きを活発に広めていたアレックス・ケマーに、彼の兄弟であるロビンソン・ケマーと、ほかのドン兄弟の働き人が加わりました。2006年8月6日、レーゲンスドルフのパン裂きの集会でロビンソンが大声で執拗に語り、聖徒たちにドン兄弟の働きと関連した方法で詩歌を歌うように導こうと努めました。ロビンソンは歌を預言の集会にまで引きのばそうとしたために、それをやめるよう求めなければならない状態でした。彼の語りかけと態度によって、彼がドン兄弟の働きを推進していたことは聖徒たちには明らかでした。午後の集会でビデオ・メッセージが流れていた間、ロビンソンは部屋の後ろに座って、彼が何を「受け入れられる」か、何が「受け入れられない」か、大声で英語で意見を述べました。彼の不同意と行動によって、多くの聖徒たちは悩まされ、召会の集会は混乱させられました。

2006年11月26日、シュトゥットガルトで、アレックスとロビンソンの二人が預言の集会で、特に時代の務めに関して、兄弟たちが語った事柄に公然と反対しました。ロビンソンはウオッチマン・ニーとウィットネス・リーの務めを強く攻撃して、「死んでいる！ 死んでいる！ 死んでいる！」と言いました。その時まで、アレックスとロビンソンはひそかに召会の一部の指導者たちに、『朝ごとの食物』と一緒にドン兄弟

の『日ごとの食物』を聖徒たちが使えるようにすること、召会のためにリビング・ストリーム・ミニストリーから書籍を注文するのをやめること、そして召会の祈りの項目にドン兄弟の働きに関する行事のお知らせを加えるべきだと、強く勧めました。11月26日の集会で、ケマーが時代のビジョンに対して強く公然と反対したことがきっかけとなり、シュトゥットガルトの多くの聖徒たちは、アレックスとロビンソンが全地の諸召会によって受け入れられている全般的な務めに対抗して、ドン兄弟の働きを推進していることを認識させられました。この直後に、ケマー兄弟はシュトゥットガルトに在る召会の交わりから身を引きました。

#### ドイツのレーラッハにおける競合する集会和分裂した働き

2006年8月10日、レーゲンスドルフに在る召会はドイツと、スイスのドイツ語を話す地域の聖徒たちに電子メールを送り、2006年10月1日から始まるブレンディングの集会に招待しました。これは定期的に計画された毎年恒例の集会で、ドイツ語を話す聖徒たちは毎回出席していました。8月11日、アレックス・ケマーは同じ群れの聖徒たちに、レーラッハでの集会への別の招待状を送りました。しかし、それはちょうどレーゲンスドルフの集会和直接ぶつかる日程に計画されていました。これは、聖徒たちの間に大きな混乱を引き起こしました。

ドン兄弟の働き人たちは、ヨーロッパの諸召会が同労者たちと交わることなく、レーラッハを彼らの集まりのために使い始めました。シュトゥットガルトの兄弟たちは、2006年10月に、このアレックスとロビンソンとの問題を提起しました。ドン兄弟の同労者であるソロモン・マーとジョアン・アントネリもこの交わりの中にいました。シュトゥットガルトの兄弟たちがレーラッハの集会によって引き起こした混乱と障害について話すと、それに答えてソロモンは、そのような混乱が解決されるまで、レーラッハでの集会はそこで行なったものを最後にすると断言しました。ソロモンの断言とは反対に、彼と、ドン兄弟の働きの中にいるほかの人たちは、ドイツやスイスの諸召会や働き人たちとの交わりを持たずに、単独でレーラッハで特別集会や集会を継続して持ち、彼らが聖徒たちの間で引き起こした混乱と不快感が依然として残っている事実は無視しました。

レーラッハは今やドン・ユー・ランのドイツにおける働きの中心となっており、その地域の諸召会から孤立しています。そこはドン兄弟の同労者たちの集まる場所となっしまい、彼の働きを広める企ての基盤となっています。レーラッハはドイツとスイスの諸召会の普遍的な交わりにあずかっていません。彼らはヨーロッパのブレンディング特別集会にも働きにもあずかっていません。むしろ、彼らは彼ら自身の特別集会を持ち、ヨーロッパですでに確立されている特別集会和何度も衝突しています。レーラッハでの集まりは今や、ドン・ユー・ランの働きの独特な味わいと、その教えと実行をはっきりと持っています。

#### イタリアでの独立した働き

2001年、エンゲディキャンプと、カリフォルニアのカンファレンスセンターでの国際的な同労者の交わりで、ドン兄弟の同労者であるミゲル・マーと、その働きに参加しているほかの人たちは、彼らの働きをヨーロッパから撤退させることに同意しました。しかしながら2001年、ドン兄弟の別の同労者であるジョアン・アントネリはイタリアに移住して、そこにはすでにヨーロッパの同労者たちの取り組みで進行中の働きがあるにも関わらず、ドン・ユー・ラン兄弟の働きを広め始めました。ヨーロッパの同労者たちは誰一人として、しばらくの間ジョアンの存在にも彼の働きにも気がつきませんでした。ジョアンはそのとき以来ずっと彼の兄弟であるシーザー・アントネリと取り組んでいます。彼らとソロモン・マーとそのほかの人たちは、ドン・ユー・ランの働きをイタリアのいくつかの地方で広めてきました。これらの地方のうちいくつかでは、家庭集会や祈りの集会のために集まっている主の回復の聖徒たちのグループが過去に存在し、今も存続しています。

2005年5月、五人の兄弟たちがイタリアのマントヴァに旅行して、ジョアンに対して交わりのドアを開く目的で彼に会い、彼をイタリアにおけるすでに存在している特別集会和集まりに参加するよう招待しました。その兄弟たちは、ヨーロッパの同労者たちとの交わり、働きのブレンディングされた方法を取るために彼を招待しました。ジョアンはこれらの招待を受け入れませんでした。むしろ、その年、彼らとほかの人たちは、イタリアのシルミオーネで彼らの働きの第一回目の夏の特別集会を行ないました。

ドン・ユー・ランの働きはさらに追加してシルミオーネで特別集会を行ない、2007年3月ローマでソロモン、ジョアン、シーザーの特別集会を行い、2007年12月マントヴァでCEAPEの訓練を行ない、2007年12月の暮れにはミラノで特別集会を行ないました。彼らは、2008年の夏に、ドン兄弟の別の同労者たちもさ

らに加えてイタリアで国際的な特別集會も行ないました。彼らは現在に至るまで他の行事を継続して行なっています。ヨーロッパ、特にイタリアでの働きと取り組んで特別集會に参加するよう繰り返し招待されたにもかかわらず、ジョアンはドン・ユー・ランの働きの特別集會以外は、いかなる特別集會にも出席することを選びませんでした。

イタリアにおけるドン・ユー・ランの働きは、独立的で隠された方法で遂行されました。その結果、主の回復の道を真にとっているイタリアの聖徒たちの間で混乱が生じ続けています。

#### 故意に隠された独立的な働き

2006年、イタリアとドイツで数年間働きをした後、ソロモン・マーとジョアン・アントネリは、ジョー・デービス、ティム・クリメク、林伯夷やほかのヨーロッパの同労者たちと交わるためにロンドンに旅行しました。その交わりで、ソロモンは、そうする理由はなかったと認めながらも、意図的に交わりを延期していたと言いました。ジョー・デービスとほかの兄弟たちは、ヨーロッパにおけるドン・ユー・ランの働きの独立性と広がり驚きの声を上げました。最初ソロモンは、ベンソン・フィリップス兄弟はそこでのドン兄弟の働きについて知っているとはっきり述べました。しかしながら、後ほどその同じ交わりにおいて、彼らがイタリアやほかの国々でグループを形成しており、それらは回復の普遍的な交わりから分離されているものであることをベンソンにはまだ言っていないことをソロモンは認めました。ソロモンはドン兄弟の働きに参加しない南アメリカのある兄弟たちのことを批判しました。彼はまた、主の回復の一つの出版の働きについて賛成している同労者たちの立場を批判し、またドン・ユー・ランの書籍の流布を擁護しました。

ヨーロッパにおけるブレンディングされた働きに参加するよう数回招待（イタリアのジョアンを訪問した五人の兄弟たちによるもの；2006年のロンドンでの集會、ジョー・デービス、ティム・クリメク、林伯夷とそのほかの兄弟たちによるもの；2006年10月19日、ソロモンとジョアンに宛てて書かれたジョー・デービス兄弟によるもの；ほかの兄弟たちによって様々な時に行なわれたもの）したにも関わらずソロモンとジョアンは彼らの独立的で分裂的な働きを継続しました。この働きが足がかりを得たところはどこでも（ドイツ、イタリア、スイスのさまざまな都市において）、その結果はキリストのからだの命の流れからの孤立でした。

「からだの真理によれば、からだは宇宙的に一です。そういうわけで、地方召會はお互いから孤立するべきではありません。孤立は、からだの一に関して、真理に反しています。各地方召會は宇宙的にからだの一部ですから、それは他の召會から孤立するべきではありません。・・・召會が独立しようとするのは、何と間違っていることでしょうか！・・・自分自身を他の召會から孤立させるなら、わたしたちはからだにおける命の注入と循環から自分自身を切り離します。そのようなものは、からだの法則を破ります。」（ウイットネス・リー著、エペソ人への手紙のライフスタディ 続編）

ヨーロッパの同労者たちと諸召會が、ドン兄弟の働きに関わっている人たちを何度もブレンディングされた働きに加わるように招待しましたが、彼らは彼ら自身の道を行くことを選びました。その結果は一貫して、混乱と孤立と分裂でした。ドイツ、イタリア、スイスの諸召會と聖徒たちに与えられた損害は、ドン・ユー・ラン兄弟の働きが独立的で分裂的であることを明確に示しています。

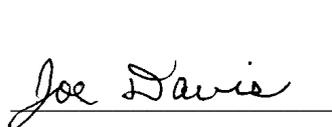
わたしたちはこの働きに同意することはできませんが、わたしたちと共にキリストのからだのビジョンにあずかっているとわたしたちが見なしていた人たちがそのような分派的な方法で振る舞い、わたしたちからの元から離れて彼ら自身の働きを行なったとしても、わたしたちは驚くべきではありません。パウロは、そのようなことが起きると諸召會に警告しました、「また、あなたがた自身の間から、曲がった事柄を語って、弟子たちを引き離し、自分に従わせようとする者たちが起こるでしょう」（使徒20：30）。この言葉は、ドン兄弟の事例においてわたしたちの間で成就しました。ですから、すべての聖徒たち、諸召會をドン・ユー・ラン兄弟と彼の分裂的な働きについて警告するのはわたしたちの責任なのです。

ローマ16：17がわたしたちに教えているように、わたしたちはドン・ユー・ランと彼の仲間の働き人たちを警戒し、彼らから離れ去らなければなりませんし、テトス3：10にしたがって分派的な働き人たちを退けなければなりません、「分裂を引き起こす者には、一、二度訓戒した後、退けなさい」。「分裂を引き起こす者」とは、「自分自身の意見にしたがって召會内で分派を作ることによって、分裂を引き起こします」（テトス3：10 フットノート1）。「召會の良い秩序を維持するために、分裂を引き起こす者、分裂的な者は、一、二度訓戒した後、退けられ、拒絶されるべきです。これは召會の益のために、分裂的な者との交わり

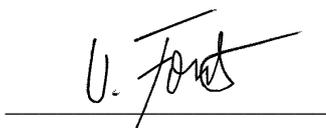
を断ち、その影響が広がるのを避けるためです」(テトス3:10 フットノート2)。

わたしたちは聖徒たちの間、諸召会の間、健全な一つ思いを大切にし、その一をいかなる影響からも守るために注意を払わなければなりません。わたしたちはすべての兄弟たちを愛しますが、わたしたちの愛は境界線のないものであるべきではありません。わたしたちは愚かにではなく、「全き知識とあらゆる識別力において、なお一層あふれ」て人を愛するべきです(ピリピ1:9)。ドン・ユー・ランの働きのゆえに、わたしたちは何がわたしたちの間でなされているかについての知識と識別力を活用する必要があります。ですからわたしたちすべては、分派的で分裂的なドン・ユー・ランの働きに対してのこの警告を冷静に、祈りを込めて受け取り、その働きと、それを広める働き人たちのいかなる交流も停止すべきです。もしどのような聖徒であれその働きによって影響された人があなたに接触して来るなら、彼らを受け入れることには用心して、あなたの地方の指導的な兄弟たちとの交わっている場合にのみ彼らを受け入れるように、わたしたちは求めます。

キリストにあるあなたの兄弟たちより、ドイツ、スイス、イタリアの諸召会と働きのために、



Joe Davis



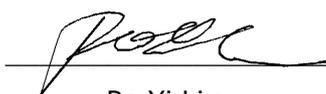
Ulrich Fontana



Tim Klimmek



Bill Lewallen



Po-Yi Liu



Pat Stocklin



Joe Xerri